



Alert

TL 9000 Informational

| | |
|---|---------------------------------|
| 1. 発信作業グループ: 作業グループ: 統合グローバル品質要求事項及び測定法 連絡先: Ken Koffman (kjkoffman@bellsouth.net) 又は Tom Yohe (thomas.f.yohe@alcatel.com) | 2. アラート番号: 06-001 |
| 3. 影響を受ける文書: 適用対象なし。 | 4. 発行日: 2006/08/16 |
| 5. アラート発行理由: TL9000 新規審査登録および審査登録範囲拡張において正当と認められるリリース 3.5 のソフトウェアのインストール及び保守 (SWIM) 測定法の適用除外 | |
| 6. 解説: TL9000 品質マネジメントシステム測定法ハンドブック リリース 4.0 は現在編集の最終段階にある。2006 年内に承認を得るためにクエストフォーラム会員に提出するべく努力が続けられている。 測定項目の大多数は相対的に小規模ではあるが重要で価値のある修正 (adjustments) がなされる。しかし、大幅な変更 (alteration) がなされる分野、即ち、ソフトウェア測定法 (TL9000 測定法ハンドブック セクション 8) がある。最終的な修正 (final adjustment) のための協議が現在も継続しているが、パッチ及びソフトウェアアップデートの品質を測定する現在の仕組み (計数ルール) (mechanism) が全面的に改版されるのは明らかである。支配的なリリース (Dominant Release) の概念と、3 から 21 の測定項目データ ^(日本語版注 1) の収集を推進するための組織が選択する選択肢 1~4 ^(日本語版注 2) は大幅に簡略化される。また、これらの変更により測定結果の比較し易さも改善される。 クエストフォーラムは審査登録した組織 (Companies) が、彼らの有効な (active) TL9000 審査登録のもとで、既存製品に対する SWIM 測定項目のデータ収集、検証、および提出を継続して行うことを大いに期待している。これには、現在審査登録されている製品をサポートするソフトウェアのいかなる新リリース、アップデート、あるいはパッチも含まれる。これらの測定項目を用いることが、内部プロセスの評価及び継続的改善を推進する助けとなるとよい。 しかしながら、ソフトウェア測定法の分野において未決着 (pending) の主要な変更事項があることを認識し、クエストフォーラムは、新しい測定法の要求事項をサポートするため、間もなく改修されることになるプロセスを作成することに費やす組織のオーバーヘッドを最小化したいと考えている。この目的のために、このアラートの発行を以って、その組織が、リリース 4.0 の TL9000 測定法の適用を速やかに (あるいは時宜を得て) サポートする体制を確立しつつある状況であれば、TL9000 品質マネジメントシステム測定法ハンドブック リリース 3.5 の SWIM 測定法は、 現在審査登録されていない製品に対して適用除外が許されるものとする。 | |

この適用除外は、現在 TL9000 審査登録がなされていない製品(すなわち、新規に TL9000 審査登録となる製品、あるいは、審査登録範囲が拡張されることによりサーベイランスの対象となる製品)のみに限定する。従来どおり、測定法のいかなる適用除外に対しても書面による理由説明を提出しその組織の審査登録機関の承認を得なければならない。この場合、新規に審査登録される製品のどれが適用除外となるかを明確にするために、組織はこのアラートを参照することができる。もしこれによって適用除外の正当性を説明するのであれば、組織は、どのようにしてリリース 4.0 の測定データの収集と有効性の確認をサポートするために体制を更新しつつあるかを示すこと。

この柔軟性を提供することは、全ての関係者にとって利益となると考える。これにより審査登録されている全ての製品に対する測定データの提出が継続的に確保される。しかし、品質システムを向上させつつある又は変更しつつある組織に対しては、新しい測定法の要求事項を速やかに統合するための基盤構築にその組織のリソースを集中させるという選択肢をとることを許すものとなる。

7. コメント:

[上記説明参照。](#)

日本語版注 1: ここでは、RAA、RAP、CPQ、FPQ、MIP、PPD、SWU の 7 種のそれぞれの測定項目において、リリース N、N-1、N-2 に関する 3 つの項目があることを意味している。PPD については、パッチの影響度の大、中、小に対応した測定項目があり、本来は全部で 9 項目となるが、ここでは、集約して 3 項目としている。

日本語版注 2: リリース 3.5 測定法ハンドブックでは、SWIM 測定法における選択肢は 1~3 のみが記述されている。選択肢 4 は、同一製品分類に属しているが異なった選択肢を用いる複数の製品の測定データを組織がまとめて提出する場合の選択肢である。